

第36号

東京掛中・掛西同窓会
東京冀北会会報

東京冀北

令和6年11月



六十年ぶりの勝利



東京冀北会
会長
杉森 正彦
高28回卒

昨年の総会で会長に選任いただき、また。伝統ある東京冀北会の歴史を振り返ると身の引き締まる思いですが、役員・事務局員の皆さんと共に会の更なる発展に向けて尽力してまいります。今年、母校が夏の甲子園で60年ぶりに勝利するという快挙の年となりました。会長就任1年目にして甲子園での勝利という感動の場に参加し、校歌を斉唱できたことは幸運の極みでした。夏の甲子園での勝利は60年ぶりということですが、春の選抜甲子園では49年前（昭和50年）に2勝しており、当時私は高校三年生でした。1回戦と準々決勝は甲子園で応援できたのですが、2回戦の強豪天理高校との闘いはテレビ応援となったことが今でも残念でなりません。

社会人となり勤務地が大阪でしたので、母校の甲子園への出場時は毎回応援に駆けつけていました。関西の高校野球人気は当時でも非常に高かったのですが、当日にチケット予約なしで応援に出かけてもアルプス席には余裕で入場できる時代でした。球場で昔の同

級生達と再会し梅田の Snackbar で飲み会を開催できたことなどは楽しい思い出となっています。

今年のアルプススタンドは超満員で、外野席まで埋め尽くした地響きのような応援は大迫力で素晴らしい、改めて感動を与えていただいた野球部員はじめ関係者の皆さんに感謝致します。お蔭様で東京冀北会の事務局も大いに盛り上がる事ができました。野球部の山下キャプテンの残してくれた名言の通り、冀北会メンバーの皆さんも「人生の最幸の通過点！」を体験できたのではないのでしょうか。

東京冀北会でも甲子園での活躍ぶりを野球部OB大澤正雄さん（高24回）の解説を交え、メーリングリストやホームページで皆さんにお伝えしてきました。一方で残念なことにメールアドレスの登録数は現在300弱程度の寂しい状況です。従来からの大きな課題である若手の参加には活動内容を知っていたく事が第一歩となります。私自身も年代幹事になるまで東京冀北会の存在を知りませんでしたし、先日、掛川での同窓会総会に参加して東京在住の若手の皆さんと会話しても会の存在を知らない方ばかりでした。

現在、東京冀北会は年数回の打ち合わせを事務局グループラインとメールにてかなりの部分を補完して運営しています。10月からは郵便料金の値上げも実施されますし、更なる会の活性化に向けスマホやPCを活用した会の運営に注力してまいります。秋野（谷）

文子さん（高14回）からグループメールに日常の風景や詩の投稿を多数頂いています。大変心安らぐ内容でいつも楽しみにしています。若者も多数参加できる気軽で温かみのある会の運営に向け、メール登録を積極的に勧奨していきたいと思っています。

さて、東京東北会の事務局運営は数年前より私の会社で実施しています。同じビルには学生就職人気最上位である外資系コンサル会社も入居していませんが、私の学生時代では想像すらできないことに、現在勤務する知名度の乏しい小規模なIT会社に東大・京大等の学生でも入社する時代となっています。転職が常態化しつつある現在の就職活動は、どの会社よりもその会社でどんなキャリアを積めるのかが選択のポイントとなっているようです。

私も60歳を機に生命保険会社からIT会社に転職し、大学の同僚達の殆どがリタイアするなかで未だに会社勤務にいます。社員と会社の成長の場に身近に立ち会えるのも新たな喜びとなっています。東京東北会の事務局運営のためにも、もう暫く仕事を続ける所存ですので引き続きのご支援宜しくお願い致します。



「選手宣誓」をした 掛川中学出身の二人



朝比奈 豊
高18回卒

甲子園を揺るがし、「掛川西」を全国に印象づける大応援だった。春のセンバツのように応援団賞があれば確実に受賞だな、と思いながらアナウンサーの昂った実況を聞いた。「あの東京オリピックの年以來、掛川西60年ぶりの勝利です」。そのフレーズに60年前がよみがえってきた。

高校2年の1964年夏、甲子園は暑かった。帰りの臨時列車で、みんなが長い試合の余韻にハイになっていた光景が浮かんで来る。

8月9日、八代東高との開幕第一試合は球史に残る18回0対0引き分け。当日に掛川に戻った私たちは今年と同じ10日、再試合での初勝利を知った。山崎道夫投手をはじめ2年生の選手が多かったこともあり、18回生には特別な夏だった。

今年は大石卓哉監督が選手の時以来26年ぶりの夏の甲子園だったが、実はあの年も「26年ぶりの出場」だった。1938年（昭和13年）、掛川中学が初出場し、村松幸雄主将（投手、当時の藤枝町出身）が開会式で選手宣

誓をした。村松さんは卒業後、プロ野球の名古屋軍（中日ドラゴンズの前身）に入り、エースとして活躍中に徴兵され、1944年（昭和19年）7月、グアム島で戦死した。24歳だった。生きていれば戦後の野球界で大成したはずの人だった。

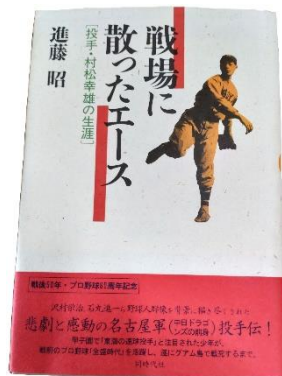
この夏の岡山学芸館との2回戦も60年前、衣笠祥雄捕手（後に広島カープ）のいた平安高校戦と同じ終戦記念日だった。試合途中で選手、観客が戦没者追悼と平和への願いを込めて黙祷する放送を観ながら村松さんの無念の死のことを考えていた。1964年の甲子園でも黙祷した同期の宇都木慎一君は村松氏の伝記（注）を探し、教えてくれた。繰り返しはいけない痛恨の歴史を考える資料となっている。

甲子園から帰った大石監督に会った時、「この夏は良い夢を見せていただきました」と自然に言葉が出た。選手、関係者全員への感謝だった。甲子園春夏4勝目の夏、村松選手から繋がる長い野球部の歴史への敬意の気持ちもあった。センバツの会場で当時静岡高校の野球部長だった大石さんに挨拶され、「いつか掛西で」と願ったことが実現した。

トレーニング改革を進める大石監督のもと、今秋の東海大会にも出場した野球部のこれからに期待したい。

同じ1964年には、私は当時は全く知らなかったが、一人の先輩が大活躍していた。

その年11月8日、東京五輪に続き



『戦場に散ったエース』
投手・村松幸雄の生涯
進藤 昭（著）

身体障がい者の国際スポーツ大会が始まり、「パラリンピック」と呼ばれるようになった。開会式で全選手を代表して宣誓した車椅子の青野繁夫さん（土方村出身）は、村松さんと同じ1939年（昭和14年）3月、掛川中学を卒業した（中学35回卒）。師範学校を出て小学校の教師をしていた時に徴兵され、中国の戦場で銃撃により脊髄に損傷をうけた。戦後、傷痍軍人として暮らしていた国立箱根療養所で練習を積んだ青野さんは53人の選手たちのリーダー格で出場し、フェンシング団体と水泳50メートルで銀メダルを取った。

身体障がい者のスポーツ大会は戦後、英国で始まり、1960年のローマで初めて五輪と同年の開催となった。日本の選手たちは世界から集まった障がい者たちを見て大きな刺激を受けた。青野さんは療養所の機関誌に「外国の選手の明るさはどこから来ているのか・・・

国家の福祉制度の充実から、生活の安定があつてのことと間違いない」「日本の現状はいわゆる先進国との差がありすぎる」と政策の改善を要求し、「全国の身体障害者が幸福な明るい生活を笑顔で送れる日の一日も早く訪れること

を、信じたい」と書いた『パラリンピックと日本人』稲泉連、小学館）。東京大会に出た選手たちが障がい者スポーツの世界を切り開き、その先頭に青野さんがいた。

9月7日、53歳の杉浦佳子さん（41回卒、城東中）がパリで東京に続き金メダル（自転車ロードレース）に輝いた。想像を超える努力があつたはずだ。涙と明るい笑顔のそれぞれに胸を打たれた。視覚障がいマラソンの岡村正広さん（高41回）、走り幅跳びの山本篤さん（高53回）とパラリンピックにも掛川西の歴史が刻まれている。

今年で喜寿を迎えた我々が高校2年の時の60年前は1904年、日露戦争の最中だった。その後の国策の誤りの果ての破局と復興から学ぶことは多



「宣誓する青野さん」 出典：『パラリンピック国際身体障害者スポーツ大会 写真集』

い。それぞれの道に足跡を残した二人の先輩は、戦争の犠牲者でもあった。

注・『戦場に散ったエース 投手村松幸雄の生涯』（進藤昭 同時代社）

編集者注・朝比奈豊氏（毎日新聞社名誉顧問）は、毎日新聞社社長をされていた2009年から8年間、甲子園の「春のセンバツ」大会の会長でした。

人生の最幸の通過点

掛川西高校野球部監督

大石卓哉 高51回卒

【8月17日冀北会同窓会での挨拶】

県での予選もそうですが、甲子園に

多くの人が足を運んでくださり、そして励ましの言葉を頂き、選手たちが甲子園で自分のちの力をしっかりと発揮することができました。60年ぶりの勝利もここにいら



2024. 8. 7 甲子園開会式入場行進

つしやる皆さんの応援のおかげです。本当にありがとうございます。

私はこの母校掛川西高校に7年前に赴任させていただきました。その時にこの隣にいる松浦先生も同じ時に掛川西高校に赴任しました。私たちともう一人牧野先生という部長先生が私の前からいて7年一緒にやっているのですけれど、その3人で何とか皆さんに喜んでいただきたいと思って今日まで励んで来ました。本当に勝てない時もあつたんですけれど、その間に学校の先生方をはじめ、いろんな支えて下さる後援会、OB会、それからその他の野球部を励ます会、冀北会、そして学会のここにいらつしやる渡邊建三さんには多くの支援を頂きまして寮を建てていただいたり、バスを支援していただいたり選手たちに様々な支援をしていただいたりしております。そこにいらつしやる内田さんにはバッティングマシンを何台も導入していただきました。野球部は多くの方に支えていただいています。選手たちが存分に野球をやる環境を整えていただいています。そういったお力がこういった形になり皆様の前で試合をすることができて、更にこの場に立たせてもらっていることに本当に感謝したいと思います。

県大会を振り返ってみますと、初戦に入る前に、実はあのキャプテンの山下が盲腸になりました。初戦に入る3日前まで練習ができなくて本当にぶっつけ本番の状態の中で、彼は泥まみれになりながらプレイをして最後の決勝

戦まで闘い抜きました。本当に完全な状態ではなくて、本

当に初戦や3回戦くらいまではフラフラしている状況だったんですけれど、やはり選手は一戦一戦経験を積んで大きく成長していくんだということを実感しましたし、掛川西高校は応援の力がどれだけ選手を育てるかということを気付かせていただきました。本当にありがとうございます。

昨日甲子園から帰って来まして今日はグラウンドに立ち、松浦先生は高野連の理事長です。秋大会の大会運営の方に行き、スタッフも選手も先を見て歩き始めています。

練習では増井が後輩のためにバッティングピッチャーをやったり、3年生もグラウンドに出て指導したりと次のステージに向けて進んでいます。

キャプテン山下が取材で「甲子園とは？」と言うことに対して、「甲子園とは人生の最幸の通過点」という言葉を残しました。ここがゴールではなく未来を見据えている選手たちが誇らし



2024. 8. 17 掛川西高野球部後援会～official～Xより

つたです。
掛川西高校野球部はこの結果に満足することなく、先を見据えて頑張っていきたいと思えます。今後もよろしくお願い致します。

葛と桔梗の中で

秋野 文子 高14回卒
(旧姓 谷)

私は金山寺が好きだ。祖母が作り甕に入っていた。麦粒に茄子、生姜が入り味噌のようになっていた。麴が発酵したものだと思う。ご飯に少し乗せ、よく食べた。常備食としては梅干し、沢庵を漬けていた。醤油は醤油屋から一升瓶で買っていたが味噌は大豆で作った。鰯節もいつでもあり父親が鰯節削りでかいてくれた。

塩は粗塩で計り売りされていた。塩町の名はあるが塩屋は覚えていない。麴屋や鰯節屋はあり、麴屋は米屋、米穀店になり今では玄米の甘酒を作り販売しているそう。

祖母は鶏を飼っていた。ふすま(ぬか)にハコベなどの葉を刻み餌を作り餌箱に入れた。時に



同期の前田二子さんと

東京東北会の会報32号『ハモニカを吹く』を書かせていただいたから、岡田良一郎を読み冀北学舎を知り歴史好き、掛川大好きに拍車が掛かり



1961.3月甲子園出場 正門前 卒業アルバム追憶

はシジミの殻を石で叩き細かくし、カルシウムを与えていた。よく手伝いをした。
野菜は八百屋で買っていたがタイサイの菜っぱは作り、紫蘇や茗荷は生えていた。無花果や夏蜜柑があつて重宝した。肉は逆川の際に肉屋があり、たまに豚の細切れ100グラムを買い、私が使いた。
魚は魚屋で買っていた。これも時々で買ったりした。松尾町の友達のお兄さんが働いていた。鰯や秋刀魚、たまに鮪の切り身を買った。刺身は祝い事のある時に食卓に上がった。祖父が川で釣った鮒を天井に吊るして干し甘露煮にしたものも食べたことがある。
自宅は神明町、牛乳屋の隣、裏に少し庭があるだけだったが、日々を暮らすのには、少し買い物をして健康的な生活が送れたと思う。子どもにとって

ました。
西高校歌、私も歌っています。愛唱歌になつてしまいました。メーリングリストからのメル友は今アメリカ。アメリカで西高の野球情報を見て応援していますよ！文武両道の公立高校掛川西高、頑張つて下さい。応援しています。私は80才で今はホームにいますが、家族が明日、甲子園応援寄付金を振り込んでくれることになっていて私も励みになっています。

西高は3年間でしたが、いくつになつても楽しくお世話になっています。同窓会が強い絆を保つてくれています。

世界一周一人旅

松浦 正幸 高20回卒

はじめに

2019年11月〜2020年2月、約100日間かけて4大陸(豪州↓南米↓欧州↓アジア)を一人旅した時のお話しです。家内から70歳定年退職ご苦労様と古希を祝つてプレゼントされた1年間有効の世界一周航空券(ワンワールドエクスプローラ)を利用して、安宿をインターネットで探して歩く手作りの旅です。仕事を離れたら誰からも指図を受けず、自由気ままにのんびりと世界を旅したいと長年にわた

り思い描いていた夢をかなえる旅でした。そんな旅で氣にいった印象に残っているところを2、3紹介します。

チリからペルーへ

昔、週刊誌でワインを飲み4日間でチリのバルパライソに行つてきた記事を読み、今回の旅では是非とも寄つてみたいと思つていたところ。ニュージーランドのオークランドから、南太平洋を横断して、チリのサンチャゴに着く。チリは、南北に細長くアンデス山脈が後ろに控えた平地が狭そうに見えるがどうしてどうして結構広い面積を有する国だ。チリで2番目に大きな都市バルパライソ(スペイン語で天国の谷)は、ユネスコの世界遺産にも登録され、昔はリン鉱石、今は銅鉱石やワインの主要産出し港。サンチャゴからブドウ畑に囲まれた高速道路をバスで2時間かけて行くと、突然街全体が見下ろせる丘の上に出て赤茶けた屋根の家が建ち並びきれいな景観のバルパライソに到着する。

住民の大部分は、スペイン人とインディオの混血で、街を散策すると近隣の畑



チリ バルパライソの路上市場



マチュピチュ行き始発電車の停まる
オランタイタンボ駅にて

でとれた野菜や果物を路上で売っている市場に出くわす。石畳みの道の上に莫蓮を上げての商売で、ひやかして覗いても観光客にしつこく買っていくと勧誘がないのがある。地中海性気候で雨があまり降らず温暖な気候、一日中歩き回っても疲れず、ワイン好きにとっては、安価で何種類もあるチリワインが飲み放題なのでお勧めだ。

チリからペルーのリマ・クスコを経由してマチュピチュに向かう。クスコからオランタイタンボ駅で電車に乗りマチュピチュに行くのだが、クスコは標高3400mの高地でしかも坂の多い街なので少し歩いただけで息が切れる。

マチュピチュは、インカ帝国時代に太陽神を祭るために1440年頃から1530年頃造られた神殿都市、米国人のビンカム博士によって1913年に発見されまだ世に知られて



マチュピチュの全貌

比較的新しい遺跡だ。建設機械もない時代に人力だけで大きな石を加工して積み重ねて作られ、それは素晴らしく一度は行ってみたいところ。

ブレッド湖（スロベニア）

ブエノスアイレスからスペインのマドリッドに入り、1か月有効の Eurail パスを使ってヨーロッパの鉄道の旅を開始した。イタリア東端にあるトリエスタからスロベニアの首都リュブリャーナで2泊。行き当たりばったり・何でも見てやろうと臨んでいる旅なので、ホテルフロントに勧められたブレッド湖を目指すことにした。あまり期待もせず行ってみたところ、それは風光明媚で雪を被ったユリアン・アルプスが臨め、ブレッド島に建つ聖マリア教会が美しい。



島なかに聖マリア教会の建つブレッド湖

教会の鐘を鳴らしに渡りたかったが定期船がなくあきらめるしかなかった。俗化されてい

ダージリン（インド）

ニューデリーから1500km離れたところを旅して怖くないねと言われる。

旅を終えて

帰国して、皆によく一人で知らないところを旅して怖くないねと言われる。

たコルカタ（旧カルカッタ）に18時間かけて寝台特急で入り、LCCでブータンとネパールに挟まれたシッキム地方のダージリンを訪れた。紅茶畑の見学とミニ蒸気機関車に乗るのが目的だ。お茶どころ掛川市東山でお茶づくりを身近にみながら育ち、世界的に有名なダージリン紅茶の茶畑を比較したく行ってみた。が、1月の冬なのでやむを得ないかもしれないが期待外れ、コンバインで刈り取る掛川茶に比べ、手摘みの茶園、あまりにも差がありすぎると感じた。イギリスの植民地時代紅茶を運んでいたミニ蒸気機関車、まるでおとぎの国を走っているおもしろい電車、早歩きと同じ位の速さで観光のために運行している。乗車券は、往復3時間で1500ルピア、2200円と割高だが、標高2000メートルの高地なので寒いが、雪を被った山々が美しく見られ貴重な経験をした。



ダージリンの Happy Valley Tea Estate

何処でも寝られ、何でも食べられ、ちよっとした度胸があれば問題ないよと答えることにしている。初めての土地で右も左も分からないので尋ねることばかり、身振り手振りを交えて、「May I help me?」の連発、多い日には20回は聞いただろうか。すると、人は皆親切に教えてくれ、わざわざ時間をかけて、目的地まで案内してくれる人ま

でいた。一人旅は、のんびり・ゆつくり・自由気ままである反面、携帯荷物に常に注意が必要でトイレに大きなバッグを持ち込まなければならずちょっと難儀した。また、西洋人はほとんどが夫婦での旅行が普通、奥さんはどうしているの、ひとり旅なんて信じられないと何人かに言われる。そんなものか、やつぱりひとり旅が好きと言わざるを得ない。

コロナ感染が収まり、ウクライナ戦争が終わったから再度一人旅に行けることを祈念している。



ダージリンのミニ蒸気機関車 Toy Train

注・航空券・Eurail Passの手配はJTB、Hotel・Rent carの予約はBooking.comを利用

統計学と転職人生



大石 雅彦

高28回卒

今では、転職はめずらしいことではありませんが、私が最初に転職した40年近く前は、まだ稀で、しかもあまりいいイメージでは捉えられていませんでした。さらに、私の場合は、新婚早々に静岡の高校教諭から東京の外資系企業への転職でしたから、同僚の先生方に東京に出て行って本当に大丈夫かと真顔で心配されました。ということと、1985年に3年余りの教員生活に終止符を打って、東京に出てきました。私は、大学では理学部の数学科で数理統計学を専攻し、大学院でも統計学を応用した研究をしていたことから、統計に関わる仕事をしたいと漠然と考えていました。教職に就いたものの、統計を使う仕事への憧れを断ちがたく、意を



米国系製薬会社時代 コロンビア人の同僚とハーバード大学を散策

決して転職に踏み切りませんでした。まずは、新聞広告で見つけたドイツ系の製薬会社へ転職し、臨床試験の統計担当者として働くことになりました。



2024.7月 スイス・アイガー北壁を眺めながら散策

ところが、転職早々、大失敗したと思いました。それもそのはずで、経験がなくとも中途採用ですから一人前扱いです。新卒のような研修はなく、入社した日にプロジェクトがあてがわれました。製薬会社の臨床開発の統計部門で働くには、臨床試験の経験・知識はもちろん、臨床統計の業務経験、それに必要なプログラミングやデータベースの知識が必要ですが、畑違いの高校教諭から転職した私にはこれらの何一つありませんでした。第一、臨床試験に関わった経験が全くありません。さらに追い打ちをかけたのが、入社早々用意されていた大型計算機のマンツーマンの終日の講習です。2日間のコースでしたが、さっぱりわかりませんでした。大体、素人には用語がチンプンカンプンです。

一時は、職を失い東京で路頭に迷うのではと思うくらいのどん底でしたが、周りの同僚に助けられながら、半年ほどでだいぶ仕事のコツを掴むことがで

きました。また、その時の上司が非常に優秀な学者のような人で、「寝る間も惜しんで勉強しなさい」と言われながら、厳しく指導されました。ここで専門的な知識、考え方を吸収する機会に恵まれたことは幸運でした。

このドイツ系製薬会社に6年勤めた後に、国内の化粧品会社の医薬品部門に移り3年余りで、さらに、米国系大手製薬会社に転職しました。欧州系の穏やかな製薬会社と違って、この米国系の会社での13年余りは、刺激的で激動の年月でした。拠点は日本でしたが、同じ社内の海外の統計専門家と一緒に仕事をすることができ充実した毎日でした。しかし、良いことは長くは続きません。統計部門の責任者を7年ほど務めたある日、外国人の上司に部屋に呼ばれて、責任者の職のクビを宣告されました。やはり外資系の会社です。会社に残ることはできましたが部下のいない閑職です。その後1年半ほどして別の米国系大手製薬会社に職が見つかり、また転職です。同じ米国系でもこちらは温厚な社風で、10年ほど統計部門の責任者を務め定年退職となりました。

50年近く前に掛西を卒業した時には将来のことなど全く想像できませんでした。が、振り返ってみれば、転職を重ねて、好きな統計学を使う仕事を続けることができ、恵まれていました。現在も、臨床試験などを請け負う会社で、海外の小規模な製薬会社のコンサルティングの仕事をしています。これ

までの統計と臨床開発の経験を活かせる、なかなか面白い仕事です。

ひとりごと



佐野 直人

高34回卒

還暦を迎えた。還暦を迎えるまで来し方を振り返ろうとはしなかった。或いはただ忘れただけかもしれないけれど、振り返った記憶は残っていない。近況は第二の職場とはいえ未だ現役で働いているし、余裕無くだ時間浪費してきたということか。卒業以来、地元に戻ることもなく勤務先の辞令で9度の転居（川崎→鶴谷→川口→仙台→越谷→広島×2→小岩→熊谷）、恐らくはこの先も戻ることはない。かといって終の棲家が定まったとも言えず、根無し草のように漂っている。

そんな中、年金

やら保険やら人生の区切りを告げる一方的な「通知」がもろもろ手元に。手続きが一段落したところに「東京



仕事風景



いを受けた。卒業以来母校、いや故郷にさえ何ら貢献らしいことをしてこなかった罪滅ぼしの気持ちで湧き、これも恩返しかと引き受けることに。未だ自分が何者でもなかった頃への感傷、あの頃を振り返っておくのも悪くはない。

掛川での同窓会にも初めて参加した。移動時間もあり二次会から。同期の大半とは卒業以来の再会だから容姿の変貌はお互い様。面影を頼りに当時の記憶を呼び起こそうとすると、定番のイベントとして体育祭や文化祭、修学旅行などとは全く覚えていないのに、何でもない放課後の1シーン、部室の入口に佇む友の笑顔、目の前を走り過ぎていく応援団員の橙色の団服とかがふわりと浮かんできたりして、何とも不思議なひとときだ。

メインの話題はもちろん、野球部の

26年ぶりの
甲子園出場、
60年ぶりの
初戦勝利。

その日は生憎酷い夏風邪を引き自宅で臥せており、やむなくテレビ観戦。初回のチャンスで第二応援歌が流れるとむっくり起き上がり、試合中は



2024.8月 掛川での冀北会同窓会二次会 34回生と

熱も下がり、勝者の校歌斉唱は画面に映る歌詞に涙ぼろぼろ。涙もろくなったのも歳のせい？ いやはや...

同窓会の数日後、61回目の誕生日が到来し還暦を無事越した。歳を重ねると最近のことはすぐ忘れ、昔のことは鮮明に思い出すと聞く。自覚するのはもう少し先でありたいけれど、このひと夏の出来事は、わざわざ振り返らずとも生きている間は容易に思い出せそう。

オレゴンの空と太陽



榛葉 繁紀

高34回卒

高校時代は現代という「陰キャ」であつた自分にとって唯一自分の存在を示すことができたのは、姉妹都市であるユージン市との交流事業だった。2年生の時に、ユージン市から多くの高校生が掛川にやってきて2週間ほど滞在した。その際、海外ドラマ好きでいつかアメリカに行きたいと思つていた自分は、親を説き伏せホストファミリーを経験させていただいた。そのご褒美もあつてだと思ふが、同じ年の夏、ユージン市に3週間ほど行かせてもらった。今思えばよくあの英語のレベル

で会話が成立していたと思う。この楽しい時間の続きを見たいと思ひ、バイトをしてお金を貯め、大学3年の時に再度ユージン市を訪れた。ただし以前のホストファミリーは離散しており、そのため知り合いを通じて老夫婦のお宅に泊めていただいた。今回はなるべく自分で行動したいと思つて、毎日のようにバスに乗り、ユージン市内を回りのんびりとした時間を過ごした。特にこれをしたという目的を持っていたわけではなかったが、街の目に見える成果はなかったが、街の中に溶け込めたということが自信になった(数年後にその認識の甘さを思い知らされるのだが)。



西校を訪問したユージン市の高校生たち

ストンでの時間は、世界を相手に生きることに意味を教えてくれた。

ユージン市との交流をきっかけに意識し始めた「世界」というものは、ヒューストンでの生活を経て、自分の中にしっかりと埋め込まれている。最近は管理側に回ったため、以前ほど世界を意識して仕事をすることは少なくなったが、それでも留学生の支援に関わるたびに若い頃の自分を重ねてしまう。そんな時、あの夏、未熟だが熱い気持ちを持った若者たちが見たオレゴンの青い空と輝く太陽を思い出してしまふ。



ユージン市を訪問した仲間達 (右から2人目)

知床と掛川 二人の巨人



鈴木 幸夫

高34回卒

昨年、38年勤めた朝日新聞社を早期退職し、野生動物との軋轢を解決する専門家を育てるために始めた(公財)知床自然大学院大学設立財団の活動を

無給で続けている。

新聞社の大先輩に13年間『天声人語』

(以下「天人」と略)を書き

続けた辰濃和男さんがいる。

退職後もエッセイストとして名文を物し

続けた。彼の天人で7万人以上が参加するまでになった自然保護運動がある。

「しれとこ100平方メートル運動」(現在は「しれとこ100平方メートル運動の森・トラスト」と改称)。イギリスのナショナルトラスト運動を紹介した天人を当時斜里町長だった藤谷豊さんが読み、この運動を考案・実行。

後にそれを辰濃さんが知り天人で紹介したこと、運動は全国に広がり7万人以上が参加。今も開拓跡地を原生自然の森に還元する努力が続けられている。

それが危機に瀕したことがある。林野庁による原生林伐採を当時の町長が容認し、社会問題としてメディアでも大きな騒動となった。その町長を選挙で破り、自然保護によるまちづくりに邁進したのが午来昌さんで、運動を始めた藤谷さんの同志で辰濃さんも「心の友」と仰っていた。私がお手伝いしている財団の設立者でもある。

辰濃さんは新聞社を辞めてしばらく、



森林保護柵とヒグマの糞、レクチャー

掛川倉真の森に住まわれたことがある。

掛川に辰濃さんと呼ばれたのは榛村純一さん。掛川市が全国に先駆け生涯学習都市宣言を行つたとき、天人

でその意義を高く評価したのが辰濃さんで、「生涯学習」が社会に浸透した。辰濃さんは生涯にわたり榛村さんと交流を続けた。

午来さんと榛村さん、二人が直接会ったことは？ そんな疑問を持つて菊川に帰省した折り、掛川駅発のこだま号で榛村さんにお会いした。話をさせていただき「さて」と切り出そうとすると静岡駅に着いてしまった。そこで降りられ聞けず仕舞いに。午来さんにお会いした折にお聞きしたところ、「いつか会って話したいと思っていたが、出来なかった。」と残念そうに答えられた。森と街づくりの巨人ともいえるお二人が会っていたら、どんな話をされていたであろうか？想像すると楽しくなるが、次に午来さんにお会いしたら尋ねてみようと思う。

財団の活動は <https://shiretoko-u.jp/> に詳しく記載されています。是非ご支援を！



「知床ネイチャーキャンパス」(現地実習)

何度も見ろ夢

舟木伸夫

高34回卒



よく見る変な夢があります。高校生の自分がいて、制服に着替えて登校しようとしてますが、長い間不登校だったため授業の時間割がわからずカバンにどの教科書を入れたらいいのかと途方に暮れてしまい結局登校することが出来ません。そして目が覚め、ああ夢でよかったとホッとします。

しかし実際に私が高校時代に不登校だったことはありません。勉強も運動もあまりパツとしなかったけれど、それなりに楽しい高校時代だったと思います。どうして還暦を過ぎた歳になつてこのような夢を何度も見てしまうのでしょうか。

多分私の家が開業医で曾祖父の代から母校の校医を務めてきたことが高校時代の私にとって重圧だったのだろうと考えています。担任の三宅先生には「君なら大丈夫だよ」といつも励まされていたいたにもかかわらず医学部に合格できる成績には程遠い状態が続き酒とタバコで気を紛らわせて、二日酔いで登校してそのまま保健室ということもありました。

結局一浪してなんとか医学部に入ることが出来たので、掛川に戻れば四代続く校医になれたかもしれませんが、現在は湘南の茅ヶ崎でささやかな小児科のクリニックを開業しております。

医学部卒業後、小児科専門医を取得、小児外科医に転身、大学院で医学博士を取得、米国小児科学会で研究発表、アイオワ大学からリサーチフェローの話もあり、やや有頂天になっていた時期に突然父が末期癌に倒れました。父の最期を看取りながら、もう背伸びはやめて本当にやりたかった仕事をしようとして大学病院をやめて普通の開業医になりました。今では昔の父のようにのんびりと診療しております。

趣味は、一時期自転車にハマって富士スピードウェイのレースに出たり、富士山ヒルクライムにも参加しましたが、最近では逗子や葉山あたりまでが精一杯です。自転車といえば、パリパリリンピックのロードレースで杉浦佳子さんが金メダルに輝き、直後のインタビューでの「早くビールが飲みたい！」の発言に掛川の卒業生はやっぱりすごい！と思いました。最後になりますが甲子園に念願の校歌が流れて感動したことは言うまでもありません。野球部の皆さんや応援に駆けつけた方々に心より感謝申し上げます。



夏の逗子マリーナで

「誌上懇談会」 還暦を迎えた仲間たち



細田 泰博

高34回卒

今年還暦を迎えた1981年度卒業の仲間と、会報の場をお借りして「誌上懇談会」を試みました。

「登場人物」

長崎（旧姓 永田） 規子
福本（旧姓 清水） 則子
吉岡（旧姓 山下） 人美

― 聞き手 細田泰博 ―

吹奏楽部の仲間です

― この4人は吹奏楽部の仲間です。私はホルンを吹いていました。

（永田）「私はクラリネットでした。」

（清水）「私もクラリネットです。同期が4人いて、一番人数の多い楽器でした。」

（山下）「私はアルトサクソフォン。同期は私1人だけでした。」

― 今は吹奏楽部も大人数の学校が多く百人を超える部も少なくありません。テレビで高校野球を見ていても、応援の音量に驚くこともあるよね。

― ということで最初の話題は、26年ぶりに甲子園に行った野球部にちな

で、応援の思い出について。

野球応援で思い出すること

― 今年の甲子園第1戦では、吹奏楽部がコンクールを翌日に控えていたため来られないで、OB OGが集まって演奏したんだってね。

（清水）「私たちのときも、前日ではなかったけれどコンクールを控えて野球の応援をするのは、本当は辛かった。クラリネットは木の楽器なので炎天下で演奏するのは不安だったし。」

― 僕ら金管楽器も炎天下でフライパンみたいになってる楽器を触るのは中々大変だったよ。

（永田）「中学までは野球の応援とか行かなかったから色々初体験だった。」

（山下）「ファウルボールが自分たちの所に飛んできて、取れる自信はないからそのまま見てたら私と隣の子の間にポトリ。当たりはしなかったけど、部長から「取らにやあ危ないじゃないか」って注意され、半べそかきました。」

― 僕は大学でも吹奏楽部に入って。春と秋は毎週神宮球場で応援してました。

（永田）「そういうえばいつペン観に来てって誘われたかな。たいへんだったでしょう？」

― いや高校野球のほうが暑いし、勝ち続けるといつ終わるか判らないよね。今年の甲子園では掛西の応援が話題になって「東京六大学の応援がメドレーで聞ける」って言われてたって。

（永田）「確かにコンバットマーチとかダッシュUKとか、あの頃から定番だ

ったね。」

（清水）「私たちのときに、さらに曲が増えたんじゃないなかった？」

― 応援団長のKが新曲をやりたいてって言って増やしたんだよ。そのとき始めたダイナマイトマーチ（早稲田）

や、僕が大学から楽譜を提供した「チヤンス法政」もあるし、ノックアウトマーチ（明治）は今回もよくかかってた。ポパイマーチ（立教）は昔からあったから無いのは東大の曲だけ。

（永田）「そうなんだ。黄色いTシャツを着てたことしか覚えてないよ。」

（山下）「胸にBBCのマークが有る黄色いTシャツ。」

― 吹奏楽部だけのお揃いで嬉しかった。

（山下）「女子は『ダサイ』って言うってたけど。」

― えっそうなの？そのせいか。随分前に黄色いTシャツはやめたらしい。

掛西といえは応援練習

― 応援練習は、掛西出身者は誰でも強い印象が残っているようだね。

（永田）「両腕を上長時間あげたままにする（注・「サイレントモーション」のこと。実際に球場で使われることはほとんどなかった）のがつらかったよ



1981.7月 野球応援風景

ね。あと、最後に1人ずつ大声で自分の名前を言うんだよね。声が小さいと何度でも言われる。」

（清水）「そうだったね。当時、応援団員は男子だけだったけど、今年の甲子園で掛西応援団の女子高生の様子が放映されていて、時代の変遷を感じました。」

― 当時は吹奏楽部だと応援練習のときも演奏するから、4回目くらいから免除になったんだよね。

（清水）「あれは嬉しかった。」

（永田）「私も。役得だよ。」

― 座ってられるし。でも出番までの間がけっこう長くて、眠くなったなあ。

吹奏楽部はイベントいっぱい

（永田）「私たちが3年生のとき、掛川バイパスが開通したじゃない。あのとき開通式に呼ばれて演奏したよね。公式行事で演奏できるなんて、と思って嬉しかったのを覚えている。」

（清水）「風が強くなかったっけ？」

（山下）「うん、楽譜が舞ってた。」

― 他にも同じ年に「不惑の集い」って四十歳になる人のための式典で演奏した



1981.3月 掛川バイパス開通式

ね。「掛川市歌」〔注・今の市歌は2005年に出来たものなので、このときは別の歌〕と「掛川の夜」を依頼されて演奏したなあ。僕とTが前に出て歌唱指導したんだよね。当日歌詞を忘れて適当に歌ったような気がする。

（永田）「その時から適当だったのね。」

夏合宿は楽しい!?

―1年生の夏合宿は、僕は参加してないんだけど、男女で大所帯の部なのでずいぶん楽しかったって聞いている。

（永田）「1年生はみんな芸を披露させられたんだっけ?」

（清水）「そう、私は合宿所のシーツを羽織って、当時流行っていたジュディ・オングの「魅せられて」を歌った気がする。」

―そ、それは見たかった。

（山下）「私は何やったかまで覚えてないなあ。」

―3年生の合宿で「山下さんのマネ」をしてる子は居たね。すごい高速で歩くのが特徴で、挨拶して顔を上げるともう遠くに行っちゃってるって。

（永田）「そうそう。「おはようござい」くらいで通り過ぎていくんだよね。」

クラスでは…

―吹奏楽部の話が続いたんで、クラスのことも教えてください。今年の同窓会は盛り上がったそうだし、思い出することも多かったんじゃない?

（清水）「私は理系の6組で女子13人が2年間一緒にクラスで仲良くやって

いたかな。〔注・当時は2年生から文系理系に分かれ、理系女子は1クラスにまとめられていました。〕卒業直後の春休みには、みんなでつま恋に遊びに行つたし。今年の同窓会は二次会だけ参加したんだけど、久しぶりに6組の友人たちにも会えて感激しました。」

（永田）「私は小学校1年からの友達と高校3年間同じクラス・同じ担任で過ごせたことが嬉しかった。ただ担任の先生は、私と彼女の名前をよく取り違えてた。似てないのに。」

（山下）「先生で覚えているのは英語の五味勝明先生。風貌も特徴的だけど、授業中に「女子はどんな大学を出るよりも、掛西を出たことのほうがステイタスになる」と言われ、へえと思った。あと、古文の先生は通勤中の二俣線

〔注・今は天竜浜名湖鉄道〕の中で、一緒にになった生徒一人ずつに暗記テストをやらせていたっけ。」

―僕はクラスでは居場所が無くて。今回東京東北会と一緒に幹事をやってる佐野くんが、1年生のとき全然縁がなかったのに話しかけてくれたんだよね。

「そのマンガ面白い?読ませてよ」って。すごい成績がいい人だったのにけ

っこう夢中で相手をしてくれて。吹奏楽部は昼休みも練習があったからいつも早弁で、お昼を食べる相手がいないことがバレなくて助かった。3年生になったたら3年生専用の部室で過ごすことが多かったな。

（清水）「あつたねー、3年生専用部室。体育館の2階の。何てだったっけ?」

（山下）「大奥」

（永田）「そう!大奥!学年全員入ると座るところがなくて。狭いけど居心地がよかったのか入り浸ってたよね。」

―3年生の定期演奏会で引退すると大奥にも居られないから、僕は居場所を探すのに苦労して。そのときクラスでごく普通に話しかけてくれたのが今回幹事の浅山さんだったんだよ。

（清水）「よく覚えてるね。」

（山下）「義理堅いんだね。」

（永田）「根は適当なのよね。」

掛川から長く離れて

―さて僕たちの共通項は掛川から離れて関東圏に根を張ったということなんだけど。ここでみんなそれぞれの経緯を教えてください。

（清水）「大学時代は仙台在住でしたが新卒入社した会社の赴任地が富士市だったので、一旦静岡県に戻りました。結婚と同時に東京にオフィスのある会社へ転職し、その後横浜市で家を購入しもう三十年以上住んでいます。」

（山下）「私は東京の文京区にある保育専門学校に入

学し、寮生活をしていま

した。その学校は今では短大に昇格しています。そこで保育士と幼稚園教諭の資格



1986年 学生時代在京の仲間と



2007年ジブリ美術館にて

た。その後、川崎にある幼稚園に勤めている時に夫と知り合い、結婚後は夫の実家である熊谷に両親と住みました。」

（永田）「東京の学校に通って、そのまま東京で就職しました。結婚相手が横浜の人だったので関東の住民になりました。掛川には母に会いに月に一度は行っていました。その母の初盆で今年の7月にも帰省したけど、大人の目で見ると掛川って飲み屋さんが多いんだなあと感じます。高校生のときはわからなかったけど。」

―僕も大学で東京に出てきて、そのままその大学に就職しました。大学生の時も永田さんとは遊びに行ってたよね。大学の仲間も連れて行って。永田さんはみんなに人気あったよ。

（永田）「そうなの!」

―肝っ玉母さんとか呼ばれていた。

（永田）「失礼しちゃう。」

―清水さんや山下さんたちとも、オジサンオバサンになってから、集まっているところに行ってたよね。川越とかお台場とか三鷹のジブリ美術館とか。そうした写真も載せておくから会報で

見てね。
今回は同窓会や東京冀北会では集ま
れなかったけど、歩けるうちにまた集
まりましょう。お疲れ様でした。
(3人)「お疲れ様でした。」

オペラ「椿姫」と出会い



榛葉 昌寛

高37回卒

今年の夏は、甲子園球場で母校校歌
を聞くことが出来、興奮と感動の熱い
夏となり、野球部員、先生方はもちろ
んOBの皆様には感謝です。

私はプロ野球日本シリーズに於いて
ソフトバンク・ホークスさんのために
2度の国歌独唱をさせていただき、超
満員の野球場の興奮も思い出し、練習
にも熱が入る夏となりました。

私の家は掛川・東山口で小さな仕出
し屋を営んでおり、音楽とは無縁でし
たが、小さい頃からテレビと歌が大好
きで、手製のマイクを手に歌謡曲をお
客さんに披露していました。

掛西ではギター部に所属し、先輩か
らフォークソングとロックを教えてい
ただき毎日の部活動、年に一度の文化
祭ライブなど高校生活は音楽一色でし
た。地元つま恋にてヤマハの「ポプコ

ン」が開催され、掛川はフォークソ
グの聖地と呼ばれた環境も私が音楽の
世界に引き込まれた理由かと思っています。
当時はチャゲ&飛鳥、松山千春、そし
てミック・ジャガーに憧れ、将来は音
楽教師になり音楽室をライブスタジオ
にしてみようと真剣に考えていまし
た。

そんな学生は大学受験の波を乗り越
えられる訳もなく、浪人し静岡の予備
校に通ったのですが、秋の映画の日の
告知を新聞で見つけ、予備校をさぼり
映画館へ向かったのです。

見たいものが見つからず、仕方なく
「オペラ映画・椿姫」を選んだのです
が、見終わった私は身動き出来ないほ
どの感動に襲われたのでした。世界的
演出家フランコ・ゼツフィレツリの超
絶美の世界、三大テノールと呼ばれる
プラシド・ドミンゴの歌の素晴らしさ
と気品ある身のこなしに、私はドミン
ゴになって、オペラを歌いたいと心に
誓ったのです。ただ無知な私は、どう
したらドミンゴになれるのか、まった
くわかりませんでした。

たまたま予備校に音楽志望の女の子
がいて、初
めて音楽大
学の存在を
知り、オペ
ラの本場は
イタリアで
あり、イタ
リアで歌う
ことがドミ



ンゴになる
道であると
教えてもら
いました。
笑いな
が、東京芸
大なら行っ
てもいいよ
と言った両
親の言葉に
「よし、じ
やあ芸大受
験しよう」

と翌日から本棚からミックやツェッペ
リンは消え去り、ドミンゴ、デル・モ
ナコ、ディ・ステファノなど名テノ
ールのレコードが並び始め、音楽、音
楽理論を大先輩、加納堅志先生（高
19回卒）がご指導くださり、2度目
の芸大受験でテノール歌手としての出
発点に立たせていただきました。

卒業後のイタリア留学は、掛川ロー
タリークラブから推薦いただき、国際
ロータリー財団奨学生として国立ミラ
ノ・ヴェルディ音楽院に学び、イタリ
ア・テラモ市立劇場にて「椿姫」主
役にデビューしたのでした。

私の人生にとって掛川西高の卒業生
の皆様、掛川市の皆様との繋がりがこ
そが今の私の活動の支えです。

オペラ、コンサート活動のほかに、
2013年からバチカンの協力を得て
毎年開催している東日本音楽復興支援
コンサートは来年2025年日本戦後
80年という年を迎え、4月24日(木)



モンテリーギ枢機卿らと

東京国際フォーラムにてヴェルディ作
曲「レクイエム」で日本の復興と世界
の平和を祈ります。

また4月から開催される大阪万博の
イタリア館アンバサダーとして、万博
におけるイタリアを盛り上げて参りま
す。

ただ、日本における芸術への理解と
支援は大変厳しい状況です。皆様のお
力で音楽と芸術による社会貢献の輪が
冀北会から、日本、世界へ広がります
ようご理解とご支援賜れますようお願い
申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康、
冀北会の一層のご隆盛をお祈りいたし
ます。

オリーブオイルが繋ぐ縁



眞島 香織

(旧姓 飯田)

高37回卒

15年程前、あるオリーブオイルの
香りと味わいの良さに驚きました。シ
チリアの土着品種であるトンダイブレ
ア種と知り、次回はその品種の別のオ
イルを買ったのですが、これが美味し
く無い。品種でも無く、何が美味し
さの決め手なのか・・・オリーブオイル
ソムリエという資格があることを知り、



トスカナ州シエナの生産者の家族

もっと深く知る為に、イタリアのトスカナ州の田舎町で、日本語の通訳も付く講座と実技を申込み、2週間で資格を取得。その後周囲の要望もあって、セミナーを開催するようになりました。ここ2年程、世界の半量を生産するスペインが早魃により、例年の半分しか生産出来ていません。スーパーでオリーブオイルが1・5倍程値上がりしています。極端に値上がりしているのは元々安価だった物。ピュアオイルというのは化学的に精製されているオイルです。残念ながら日本にはエキストラバージンというカテゴリーは存在しません。日本の農水省が定めているのはオリーブオイルと精製オイルの2カテゴリーのみ。

私がお勧めしているのは生産者からダイレクトに輸入されているオイル。もちろん円安、輸入費、資材・光熱費

の高騰により1・2割は値上がりしています。前出の物のように極端に値上がりしていません。生産者からダイレクトに輸入されている事は大きなメリットが双方に。油という毎年同じ物が手に入ると勘違いされがちですが、オリーブオイルもレタス同様に農産物であり、環境や気候で毎年変化します。

私が大切にしているのは生産者と消費者を繋げる事。その為にイタリアや日本の生産者を訪ね、生産者のお宅に泊めて頂くことも。単純作業を手伝ったり、なるべく長く彼らと一緒に時間を過ごします。オリーブ畑は田舎なので、都市部からのアクセスが本当に大変。公共交通機関が無い場合は車を借りるしかありません。山道の運転は慣れています。反対の車線や信号の無いロータリーでの右左折は慣れるまでは大変でした。

中には本当に家族ぐるみのお付き合いをする生産者も。特にトスカナ州シエナの有名なオイル生産者のお宅でクリスマスを3回ほど過ごしました。初めて会ったのが静岡の父が亡くなった年で、イタリアの父と呼んでいました。いつも沢山お小遣いをくれるのです。そのお小遣いで今では祖父の跡を継いでいる孫が大好きな日本のカップ麺を大量に送っていました。



過去形。今年の春、突然の訃報が。今年の秋はパパのお墓参りに行ってきます。

2024年夏の 高校野球観戦記



廣畑 淳也

高55回卒

毎年楽しみにしている夏の高校野球ですが、今夏は県大会4試合・甲子園の2試合を現地観戦しました。チームは1試合ごとに強くなり、甲子園出場・1勝という殊勲はもちろんのこと、いつもの年より長く長く夏を楽しませてもらいました。選手達には感謝しありません。

初戦の掛川球場・浜松城北工業戦は、なかなか得点が奪えず、終盤までやきもきする展開でした。8回裏に勝ち越し、幕切れはライトへの大飛球を田中君がダイビングキャッチする、超ファインプレー！さらにエース高橋君は96球完投でマダックス達成。振り返れば、貴重なチャンスをものにして、泥臭く堅守で勝ちをもぎ取る、今年の掛西の戦い方を象徴する試合でした。次の浜松球場・袋井高校戦では終盤に打線が爆発、これで勢いに乗った！と思ったのもつかの間、4回戦・日大

三島戦が最大の関門となったのです。1点リードの8回・9回に満塁のピンチをむかえながら、これを無失点でしのいで、辛くも勝利をおさめたのです。オンライン観戦だったので、仕事そっちのけでファースト石川君のファインプレーにガッツポーズしたのを覚えています。高橋君もチームも、この戦いを乗り切ったのは大きかったのではないのでしょうか。

準々決勝の駿河総合は草薙球場3塁側、準決勝・加藤学園戦では1塁側での応援です。これが炎天下で大変な天気でしたが、選手と応援団・吹奏楽部、在校生・父兄の方々こそ、毎試合頑張っておられたと思います。掛西自慢の大応援団もこの頃にはかなり様になってきていました。

ここまでくると否が応でも期待が高まり、7/29(月)いよいよ決勝！外せない用事のため泣く泣くオンラインで声援を送りましたが、日替わりでヒーローの生まれる今夏の掛西、5打点と大暴れした杉山君の勇姿、鈴木脩平君がチーム今試合唯一の本塁打を放ちダメ押し、ラストバッターが桑原



2024. 8. 15 甲子園にて

君へのセンターフライとなった瞬間の歓喜たるや!! それでも甲子園であげた1勝の、ここまですが序章に過ぎなかったのです。

8/10(土)の第4試合・山梨県代表の日本航空戦は、ライト側外野席から掛西の同期と声援を送りました。15年前のセンバツ、3塁側で応援したことを思い出します。初回先頭の田中君が内野安打で出塁、2番鈴木君のライトへのタイムリーツーベースは、決勝の本塁打と同じ「大進撃」のマーチが流れる最中でした。3番佐藤君・4番堀口君の連打も続き、この回一挙に3得点! 第2応援歌が響く1塁側アルプススタンド・ライトスタンドは大盛り上がりです。一度は逆転を許しますが、それでもめげず「負ける気がない」のが今年の掛西でした。本



2024.9.23 秋の草薙球場で「いいね!」ポーズしてくれた高橋君・堀口君・山下君ほか野球部3年生たち

に雰囲気の良いチームです。声も出ているし、喜びを全身であらわす選手たち。追いついたのは4回の表、四球で出塁した9番高橋君がエラー・犠飛、さらに鈴木君の3安打目となるタイムリーで生還したのです。守備では5回裏、2アウト1・3塁からのダブルスチールを予見して、本塁で刺した高橋君・堀口君のバツテリーが見事でした。歴史に残る7回の大逆転劇は2アウトランナーなしで3番佐藤君のツーベースヒットからでした。好走塁で2塁に進んだのが、4番堀口君の逆転打につながります。5番キャプテンの山下君のヒット、6番杉山君四球で満塁としてからの7番石川君の2点ツーベース! 初回の失策を取り返す殊勲打でした。ダメ押ししの8点目は8番桑原君のタイムリーヒット、これで先発全員安打のおまけもついて来ました。素晴らしい思い出になったのではないのでしょうか。投げては後半継投した増井君が無失点で切り抜け、夏60年ぶりの勝利をあげたのです。キャプテン山下君が日本航空の4番・小林君と幼馴染の親友だったことも話題となった一戦でした。

あれからもう2ヶ月近く経ちますが、今でもネットに残っている試合のアーカイブ・応援団の動画を見返してしまいます。私たちOB OGにとっても大きな大きな思い出になりました。これから新たな歴史を刻む後輩たちの活躍を応援していきたいと思ひます。

応援団指導部を 振り返って



岩崎啓太
高63回卒

掛川西高野球部の皆様、この度は夏の甲子園への出場および60年ぶりの1勝、本当におめでとうございます。そして、野球部の勇姿を目の当たりにして感動したとともに、勇気をいただいたことに深く御礼申し上げます。

ネットニュースやSNSでは、掛西野球部の健闘が取り上げられていた一方で、応援についても話題になり、大変驚きました。私は2008年から2010年まで応援団指導部に在籍していたため、僭越ながらこの盛り上がり

に大変誇りに感じました。そこで、本稿では応援団指導部に

ついて振り返りたいと思います。

応援団指導部は70年以上前に設立された部で、漫画『名門! 多古西応援団』



応援団指導部員として 高校生時代

のモデルにもなった由緒ある部になります。そんな掛西の応援歌は、応援のルーツともいえる早稲田や慶應からお借りしたものがほとんどです。応援スタイルも早慶に倣い、応援リーダーは学ランを着て全校生徒を指揮するため、まさに「バンカラ」という言葉がふさわしいです。ですが、「バンカラ」は裏を返せば「古臭い」のが私の持論です。実際に、平成半ばに入學した私ですら当時その印象を持っていたため、入部しようとは微塵も思いませんでした。しかしながら、葛城祭や夏の予選大会での応援を経験していくにつれて、掛西のバンカラストाइルの応援に惹かれていくようになりました。こうして、私は入學して半年以上過ぎた冬頃に縁あって応援団指導部員になりました。

そんなバンカラストाइルの応援団指導部ですが、令和になるとさすがに時代の波に淘汰されるのではとずっと不安でした。しかしながら、応援練習のやり方の変更、チアリーダーの導入や女性団員の入部など、時代に合った取り組みを行い、その結果として応援団指導部が廃部どころかさらに洗練された状態で甲子園球場に戻ってきて、私は安心感と感慨深さを覚えました。後輩の皆さんは相当苦労されただろうと思うと、私は本当に頭が上がりません。これからも、歴史や伝統を重荷に感じることなく、現役生のやりたいような応援を目指していき、応援団指導部の新たな時代を築いて欲しいと感じております。これからの野球部、そして應

援團指導部のご活躍を心待ちにしています。



2024. 8. 10 應援團 OB の皆さんたちと

東京冀北会事務局 紹介

事務局 長就任にあたって



東京冀北会
事務局 長
小柳津 康博
高32回卒

高32回の小柳津と申します。令和5年度の総会におきまして、事務局長に就任いたしました。不慣れのため会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、東京冀北会を盛り上げるため、杉森会長、杉山代表幹事、役員・事務局の皆様とともに頑張っておりますので、よろしくお

願いたします。

今年は、1946年の統計開始以降、夏として西日本と沖縄・奄美で一位、東日本で一位タイの高温となったそうですが、野球部の26年ぶりの甲子園出場、60年ぶりの勝利と、掛川は暑い夏がさらに熱く感じたのは私だけではないかと思います。

皆様から頂きました、総会の案内状に同封した出欠確認のはがきでも、通信欄に甲子園出場に関する記載が目立ち、掛西同窓生の一体感が感じられ、とても嬉しく思いました。

また、高41回の杉浦佳子さんのパリ・パラリンピック自転車競技での金メダル獲得もあり、この夏は二重の喜びとなりました。

現在の事務局は会長以下12名と年代幹事で運営しています。年代は、高24回から高62回と幅広いメンバーとなっておりますがライングループを作成して日々、情報交換を行っています。

今回の野球部の活躍につき

ましても、県大会から現地に赴いたメンバーが逐次情報発信してくれ、メンバー一同その情報に一喜一憂

（仕事中の方の中には

いたはずで



2024. 8. 10 甲子園で 事務局メンバーと

すが・・・）していました。さらに甲子園でも、年代を超えて一緒に応援するなど大いに盛り上がったところですが、今の事務局メンバーは、年代幹事を経験されてそのまま事務局に残っていただく方が多くなっています。かくいう私も年代幹事から事務局に入りましたが、是非、若い方に積極的に事務局運営に参加いただき、更に、東京冀北会を盛り上げていきたいと思ひます。事務局の事は、年数回の総会に向けた打ち合わせ、同窓会の準備等や案内状の発送作業、HP、メールマガジント、Facebook による広報活動等です。若い方には、敷居が高いと思われがちですが、決してそのようなことはありませんので、興味がありましたら、事務局までご連絡を頂きますようお願いいたします。メンバー一同首を長くしてお待ちしています。

東京冀北通信

◆石田 武

中44回卒
会の一層のご発展をお祈り申しあげます。

◆園田 清

高4回卒
遠出はもう90歳を越したので一人では難しいため欠席します。会の益々の繁栄を祈ります。今年は校歌が聴けて良かったです。

◆鍋代 隆士

高7回卒
高齢の2人暮らしで2人合わせても0・7人分ぐらいしかないので我慢することの多い生活をしています。母校が2

6年ぶりに甲子園に出場しテレビを観ながらの応援に熱が入りました。

◆川村 弘史

高8回卒
今年も出席できそうだけれど思っています。久しぶりの甲子園出場はうれしかったです。

◆小杉 慎二

高8回卒
高齢の身、ご迷惑をお掛け致しますが、若い皆さんから新しい力を戴く事を楽しみに今年もお世話になります。夏の草薙球場、甲子園には熱中症が心配となり参加応援出来ず誠に残念でした。

◆川嶋 満男

高10回卒
ご盛會を祈っております。

◆佐塚 重之

高10回卒
85歳となりました。静かに暮らしています。

◆常盤 敏時

高10回卒
都合により欠席します。会のご盛況を念じております。

◆松下（後藤）玲子

高10回卒
暑くて外出できない厳しい夏でした。

◆村田 繁

高10回卒
甲子園は再び近くなった。素晴らしい指導者が母校の文武すべてをレベルUPする、と感じた。

◆石川 嘉延

高11回卒
中部地区の同窓会への出席が先に決まっております。申し訳ありませんが欠席させていただきます。皆様によりよくお伝えください。

◆栗倉 健二

高13回卒
皆様のご健康と、会の盛會をお祈りいたします。

◆神谷 省吾

高13回卒
母校掛西の一層の発展とOBの皆様

の御健勝を祈念申し上げます。

◆大石 武郎 高14回卒

6月の慶應高校との練習試合から甲子園へ10月の東海大会まで、存分に楽しませていただきました。冀北会からの連絡で、大澤さん、廣畑さんの解説もわかりやすかったです。

◆橋山 高昭 高14回卒

今年の夏は県代表として掛西が甲子園で爽やかな野球で楽しませてくれ、感謝の多謝！ブラボー！

◆神谷 達雄 高15回卒

久々の甲子園出場で、その活躍と大応援団は注目を浴び、又、パリパラでは杉浦佳子さんの金メダルなど、掛西にとつて素晴らしい年でした。

◆鈴木 恒司 高15回卒

ボチボチ生きて80才になりました。

◆川島(福代) 君子 高15回卒

野球部の甲子園出場おめでとうございます。在学時代応援団の指導を受け応援練習をしたことを思い出して一生懸命応援しました。

◆飯山 正純 高17回卒

今夏の甲子園出場はGood Newsでした。

◆伊藤 彰 高19回卒

今までの飲み食いの最高階は36階でした。今回は54階との事！景色も楽しみです。

◆鴨川 富美子 高19回卒

田舎に暮らしていると頭が錆び付いてしまうと思いきや、可能な限り参加しています。各界の方々のお話が聞けて活性化します。

◆富永 二郎 高19回卒

今年の暑さには参っています。元気な内に皆様とお会いしたいと思い、出席し

ようと思っています。野球部の甲子園出場おめでとうございませう。

◆橋本 和久 高19回卒

野球部26年ぶりの甲子園出場60年ぶりの勝利記念すべき年、総会も大いに盛り上げましょう。

◆稲葉 正晴 高20回卒

最近、健康維持の為に、スポーツジムに通っています。そこで知り合った女性は現在92才で私と同じ大学出身(中央大学卒)です。スポーツジム歴は46年、身体はどこも異状なしとの事です。大きな目標ができました。

◆寺澤 康夫 高20回卒

大石監督、高24大澤さん、高30岡田健治さんとお引き合わせをお願いいたします。楽しみにしております。

◆伊与部(妻木)みち子 高21回卒

フランス語も少しづつ上達してきました。オンラインレッスンですが、フランス人とフランス語で話せるだけで楽しいです。今の仕事を辞めたらドラマも習ってみたいと思っています。

◆森田 重敏 高21回卒

今年は野球部が甲子園に出場し1勝し、パリンピックでは杉浦佳子さんが東京に続き金メダルを獲得しました。杉浦佳子さんは2022年に、また今年現役引退したパラアスリートの山本篤さんには2018年の東京冀北会総会で講演いただいています。野球部を含めこれらの選手を応援することは、同窓会として意義のあることだと思っています。

◆内田 金男 高22回卒

今夏甲子園で盛り上げた第2応援歌を総会でも大合唱することを楽しみにしています。

◆堀内 邦彦 高24回卒

本年の掛西野球部の活躍に感激いたしました。

◆小柳津 雅之 高25回卒

今年久しぶりに掛西が夏の甲子園野球大会に出場して一回戦を突破しました。来年も期待しています。

◆長沢(雲母) 初江 高26回卒

メーリングリストやグループラインで母校の話題を日常的に耳にした一年でした。甲子園出場で盛り上がりましたね！

◆落合 紳哉 高26回卒

久しぶりに甲子園に行き夏60年ぶりの勝利を見届けました。

◆加藤 典之 高26回卒

今夏、野球部の大活躍。私にとって素晴らしい夏になりました。

◆西郷 篤夫 高26回卒

今夏の高校野球ヒートアップした母校の甲子園出場！結果はともかく「感動」を久しぶりにありがたう、感謝です！総会も盛り上がることでしよう。

◆太田 裕一郎 高27回卒

懇親会は昨年と同じ出身中学校単位が良いと思います。幹事の皆様いつもありがたうございます。

◆田中 紀子 高27回卒

母校の活躍は嬉しい事です。来年9月に掛川市に転居する予定であります。

◆樽松 正記 高28回卒

甲子園一回戦勝ったことで掛川から応援タオルを調達して二回戦に備えましたが、残念ながら敗けてしまいました。あと一本が出ていれば。

◆鈴木 誠治 高28回卒

毎日が日曜日です。月に1週間程度掛川に帰省しております。

◆中嶋 毅 高28回卒

仕事は非常勤で続けていますが、一方で横浜のあるビックバンドで年に数回、ステージに立っています。

◆鷺山 雄一 高28回卒

神奈川銀行の社外監査役の傍ら、中小企業診断士として中小企業基盤整備機構や板橋区中小企業活性化センター経営改善チームの登録専門家になり、中小企業支援に取り組んでいます。大日本報徳社にも時折寄稿させていただいています。

◆田中(岩瀬)由枝 高30回卒

今回初めて参加させていただきました。47年前3年在学時の夏に甲子園に応援に行きました。今年の夏も47年ぶりに甲子園で応援することができました。うれしい思い出ができました。

◆鈴木(垣辻)昇 高30回卒

今年で65才になりました。年金生活が始まります。氏名の変更もありました。宜しく願っています。

◆渥美 正和 高33回卒

16年ほど台湾に赴任しております。2018年に帰任しました。この度入会致しました。

◆春田 由紀子 高33回卒

昨年の同窓会は学年幹事として参加いたしました。当日含め有意義な時間を送らせていただいた事を感謝しております。今年は一般として？参加したいと思えます。楽しみにしております！

◆増田 高夫 高33回卒

先日、初めて「掛川大祭り」に行ってみました。小さいとはいえ城下町いいですね。ふるさと再発見です。

◆植田(永田)圭子 高41回卒

いつも、関係者、高校の情報をいただき有難うございます。

訃報

(敬称略)

◆堀池有
逝去 中41回④卒◆杉本士郎
2024年8月23日逝去 高2回卒◆八木正毅
2024年5月29日逝去 高2回卒◆杉浦康郎
逝去 高3回卒◆鈴木守
2024年3月逝去 高3回卒◆武内(平松) 恭久
逝去 高4回卒◆高橋昌彦
2023年9月17日逝去 高5回卒◆恩田健
2024年6月30日逝去 高6回卒◆戸塚重樹
2024年2月23日逝去 高6回卒◆熊切明夫
2021年1月逝去 高8回卒◆鈴木勇夫
2023年12月逝去 高14回卒◆赤堀忍
2021年秋逝去 高26回卒◆曾田(笹本) 祐子
2024年8月12日逝去 高29回卒◆黒田美保
逝去 高35回卒

祝 杉浦佳子さん パリ パラリンピック 金メダル！



写真:NHKweb より

*自転車 杉浦佳子さん 『全身全霊を捧げ』最年長記録更新へ

——9月7日パリ 2024 パラリンピック自転車競技ロード女子 C1-3 ロードレースで、東京 2020 大会に続き、2大会連続で金メダルを獲得しました。——

「最年少」記録は二度と作れないけれど、「最年長記録」はまた作り続けられますよね。全身全霊を捧げます。50歳の時の私よりも53歳の私の方が速かったら、何となくそれ希望みえませんか。私の肉体から精神から体の細胞の全てをここに注ぎたい。若い人とも戦えるおばあちゃんもいるってことを日本の同年代の人とかに見てもらえたら...
 (「全身全霊を捧げ」最年長記録更新へ 動画配信より)

<冀北学舎> ——「冀北会」の名前のルーツ——

明治10年7月、西南戦争も真つ最中の頃、掛川市北部倉真地区に私塾「冀北学舎」が産声をあげた。斎主(校長)岡田良一郎は後に佐野・城東郡郡長を務めた素封家の当主。幕末期の済民思想家・二宮尊徳に傾倒し、その教を遠州一円に広めた。冀北は中国の名馬の産地で「優秀な人材を多く世に送り出す」との意気が込められた。



「特色は英学に最重点をおいたことである。(中略)冀北学舎の英語教育のレベルの高さは、例えば明治18年に英語重視の海軍兵学校試験で、静岡県からは十三名が受験し、厳しい学力検査の結果二名が合格したが、いずれも冀北学舎出身者だったことから推察できよう」

明治13年、前期・掛川中学が誕生すると、良一郎は初代校長を兼務。が、明治政府の「一県一中学」方針から同校は短期間で浜松中学などに合併され、本格的な公教育の開花は今日の掛川西高の前身となる新生・掛川中学の開校(同三十四年)まで待つことになる。

掛川市の中心部にある大日本報徳社。そこには冀北学舎の役目を終えた古い木造二階の建物(市指定文化財)が今も保存されている。(抜粋: 中日新聞 web 掛川西高100周年「天守の杜に」第1部)

<東京冀北会 新役員候補>

会長 杉森 正彦(高28回卒)
 副会長 端詰 正子(高24回卒)
 野川 雅江(高26回卒)
 後藤 利康(高27回卒)
 代表幹事 杉山 文章(高29回卒)
 事務局長 小柳津康博(高32回卒)
 事務局員 金村真由美(高33回卒)
 野中 俊文(高37回卒)
 廣畑 淳也(高55回卒)
 黒田 浩幸(高62回卒)
 会計監査 鈴木美智雄(高32回卒)
 鈴木 泰子(高35回卒)

ホームページ

高校・大学周年特集

掛川西高100周年 天守の杜に

掛川西高校、「質実剛健」「文武両道」の校風が生んだ熱き青春群像を追いながら、校史に残るエピソードや卒業生の活躍ぶりを紹介しています。

第1部 校史編
 第2部 部活動編
 第3部 人物編

⇒2000年5月制作版
 未読の方はぜひご一読を！



中日新聞

<上毛新聞> 2024.8.11<抜粋>

掛川西高校と沼田高校(群馬県)は校歌が似ている。前奏のメロディーこそ少し違うものの、歌詞が付いている部分はほぼ一緒。…鍵を握るのが両校に籍を置いていた岩崎莞爾教諭だ。…沼田高は沼田女子高と統合して2025年4月に共学化するため、校歌も新しくなる。沼田の校歌が甲子園で流れることはかなわなかったが、掛川西が勝利して親近感を覚えた沼田高の関係者も多いのではないかと。

掛西野球部 サポーター募集 掛川西高校野球部後援会より

日頃は、野球部後援会の活動にご支援いただきありがとうございます。

皆さんご存知のとおり、野球部は26年ぶりに夏の甲子園に出場して、60年ぶりに夏甲子園で校歌を歌うことができました。秋も県大会2位で東海大会に出場しました。

夏も秋も全国から選手を集めている有力私学を3校破って大活躍でした。

本校は、全員県内の出身で、県外からの選手は1人もおりません。県内の出身者だけで甲子園を狙える県内唯一のチームです。

東海大会では敗れてしまいましたが、冬のトレーニングで、来年の夏はまた甲子園を狙えると確信しております。選手監督スタッフ皆頑張っております。

是非今後も多大なるご支援をよろしくお願い致します。 掛川西高野球部後援会会長 早瀬公夫

年会費：12000円（試合球10球相当）／ 6000円（40歳未満）

振込先：静岡銀行掛川支店 普通0437698 掛川西高野球部後援会 会計 岡本昌太

*名前・住所・携帯電話番号をメールにて連絡して下さい。

後援会事務局：メール kakenishi.kouenkai@gmail.com

掛川西高校野球部後援会 <https://kakenishibb.blog.fc2.com>

X(Twitter) 掛川西高 野球部後援会~official~ @kakeko1901/<https://twitter.com/kakeko1901>



X

- 7/29 全国高校野球選手権大会静岡地区大会決勝にて聖隷クリストファー高校に7-2で勝利
- 8/10 甲子園1回戦にて日本航空高校に8-4で勝利、
- 8/15 甲子園2回戦にて岡山学芸館高校に2-0で敗退
- 9/29 秋季東海地区高校野球静岡県大会決勝にて常葉大菊川高校に9-5で敗れ準優勝
- 10/19 秋季東海地区高校野球大会1回戦にて岐阜第一高校に8-1で敗退

秋季東海地区静岡県大会の決勝後
準優勝記念写真 2024.9.29



ゴルフ有志の会

9月30日、暑かった夏が嘘のようなGOLF日和に恵まれ、有志13人参加のもと和気あいあいとPLAYを楽しみました。

来年度もコンペ企画を予定していますのでより多くの皆様の参加をお待ちしています。

〔連絡先〕 松浦正幸（高20回卒） tel:090-4967-5041

メール: masa518matsu@yahoo.co.jp



2024.9.30 東京よみうりカントリー

2023 年 11 月東京冀北会同窓会フォト





令和5年度東京冀北会収支報告

令和5年4月1日～令和6年3月31日

【期首残高】	1,567,357円…①
【収入】	
年会費 (234名)	717,000円
懇親会費 (83名)	581,000円
総会ご祝儀	40,000円
幹事会・役員会個人負担	205,000円
預金利息	2円
収入合計(預金利息2円) (A)	1,543,002円…②
【支出】	
総会・懇親会費用	540,000円
総会・懇親会その他費用	201,474円
総会通知郵送費(1793通)	175,254円
幹事会・役員会費用	361,730円
印刷費(案内状、会報等)	30,084円
通信費(HP更新)・郵送費	23,462円
備品代・交通費・振込手数料	64,151円
支出合計 (B)	1,396,155円…③
【期末残高】①+②-③	1,714,204円
【資金管理】	
郵便貯金	1,273,000円
みずほ銀行	438,972円
現金	2,232円

令和6年5月22日 会計監査 鈴木美智雄(高32回卒)
同 鈴木泰子(高35回卒)

事務局より



2024/9/4 同窓会案内状封入作業
(杉森正彦さんの会社会議室にて)

幹事学年(高34回卒)

校歌

一 岩根ごときき天守台
その麓にぞわが校は
基定めて逆川の
栄え行くこそ楽しけれ
雨降り嵐すさぶとも
指してや行かむ小笠山
希望の懸を射るまでは
めげず撓まず崩折れず
やがてまことの功なし
誉れは栄ゆる百錦
飾りて花の色そへよ
大和島根の山桜

二 進め若人 桔梗が丘に
伝統の鐘 今ぞ高鳴る
青春の息吹は燃えて
大地をゆする
友情ここに結ばれて
戦意いよいよ新たなり
おお掛川 掛川西高
進め若人 桔梗が丘に
団結の歌 今ぞ響ける
青春の血潮はたぎり
大地をゆする
健斗ここに果たされて
勝利いよいよ確かなり
おお掛川 掛川西高
進め若人 桔梗が丘に
栄光の旗 今ぞひらめく
青春の希望はあふれ
大地をゆする
錬磨ここに報われて
名声いよいよ盛んなり
おお掛川 掛川西高

三 第二応援歌

【東京冀北会 Facebook】

<https://www.facebook.com/tokyo.kihokukai>

【メーリングリスト】google グループ

登録問合先：東京冀北会 事務局

【東京冀北会ホームページ】<https://www.tokyo-kihokukai.com>

《編集後記》

副会長 端詰正子(高24回卒)

今年も無事に会報を発行することができました。ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。大石監督の甲子園1回戦勝利後の言葉の中で「26年前出場の後、その間にも一生懸命グラウンドで頑張ってきた選手たちや指導者の皆様がこのまでつないできてくれた思いも全て含めての勝利だ」という言葉が印象的でした。東京冀北会も平成元年設立以来、先輩の役員・事務局・学年幹事の方たちがこの会を継続するために毎年工夫を重ねながら引き継いで来られたシーンが目に浮かぶ想いです。元事務局局長さんの「この東京から冀北の灯りを消さないで」という言葉が耳に残っています。

新しいことも取り入れていきたいです。今年は事務局の廣畑さんが参加申込用のgoogleフォームを作成しました。野球部情報もありメーリングリストの投稿は60回以上、HPに動画を初アップ。事務局グループラインで皆が頻りに情報を交換。遠州弁のスタンプに笑えました。これ面白いのです！野球部からは甲子園出場と素晴らしいパワーもいただき事務局一同感謝しております。

先週「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」を観て参りました。担当者の方とお話するうち、掛西OBと知り嬉しい気持ちになりました。故郷で地域振興のために頑張っているNPO、ボランティアの方たちから、自分たちの住む町を何とかよくしていきたいという思いが伝わってきます。

東京の同窓会でも掛川で繋がっている和やかな気持ちで、また来年参加しようかなと思っていただけのような楽しい会にできればと思います。



東京きほく



発行日 令和6年11月
発行者 杉森正彦
発行 東京冀北会

【東京冀北会 事務局 tokyo.kihokukai@gmail.com】